

不二健育会 特別養護老人ホーム ケアポート板橋

佐藤弘美 (職種 / 介護支援専門員 所属部署 / 地域包括)

功 績 介入を拒まれる認知症を患ったご利用者に対し、親身な対応にて安心できる環境を提供。

また医療的ケアが発覚したご主人に対しても迅速に支援し、夫婦共倒れの危機を回避した功績

推 薦 者 鈴木穰 (地域包括センター長)

推 薦 理 由 老老介護、介護拒否のあるケース。いずれは、夫婦共倒れになるリスクをできる限り早期に軽減できるように、本来の相談業務の範疇を超えて、ご家族の同意を得ながら親身な対応し、危機を乗り越えたケース。

理事長賞に相応しい功績であると評価し、推薦させていただきます。

内 容

令和6年8月初旬の朝に地域包括圏域内の公園付近で、ヘルパーらしき方より徘徊しているご本人を託される。肌着にパジャマのズボン、サンダル履きであり、何も入っていない袋を持っている。氏名は伝えられるものの生年月日と年齢は答えられなかった為、団地内を付き添いながら傾聴。当初は○号棟の○Fとキーワードを聞き出せるが、部屋番号は分からない。次第に表情もほぐれ、○号室、夫と一緒に住んでいる情報を得る。ご自宅へ送り届け、夫にお話を伺うことができる。

普段は近隣スーパーに買物に行っており、ご自宅までは何とか戻ってこれていたが、今後もこのようなことが起こると想定できた為同日訪問し、みまもりキーホルダーを付与。

1週間後、 HDS-R2点 夫より介護拒否。入浴拒否。髪の毛も伸ばしっぱなし。徘徊、水道、火の止め忘れが心配で一人にしておけないので困っていると訴えあり。

9月末頃の朝 団地側の歩道を駅方向に向かって歩いているご本人を偶然見かける。夫は迎えに来れないと仰る。駅から電車や車で帰ることを提案するも、歩いて帰れるの一点張りであった。

団地の商店街を抜け、駅～団地号棟まで何度も休憩しながらゆっくり歩く。途中何度も水分補給を勧めるも受け付けない。住居号棟まで一緒に歩き、後は夫にお任せした。10月も外出し帰宅できないことあり。翌週に髪を切ってもらってぐっすり眠れるようになった。

翌年の1月初旬にご本人が体調不良となり、救急要請後総合病院へ入院。(尿路感染症、脱水) 夫に特別な場合の理解判断力が困難な状況があり、病状説明や転院手続等に佐藤が同席。都度親身な対応を行った。

2月末 要介護4。老健入所→3月末に住宅型有料老人ホーム入所迄伴走した。約2週間後に夫自身に前立腺癌の診断。4月末に介護保険申請。自費ベッドレンタル導入等、夫の支援を継続している。